

現状と課題

- 観桜期に年間観光客の3割が集中 → 慢性的な渋滞が発生
- 道幅狭いまちなか等に一般車両が進入 → 観光客・住民の安全性低下
- 年間観光客が減少傾向、コミュニティ衰退 → 景観維持活動の低下

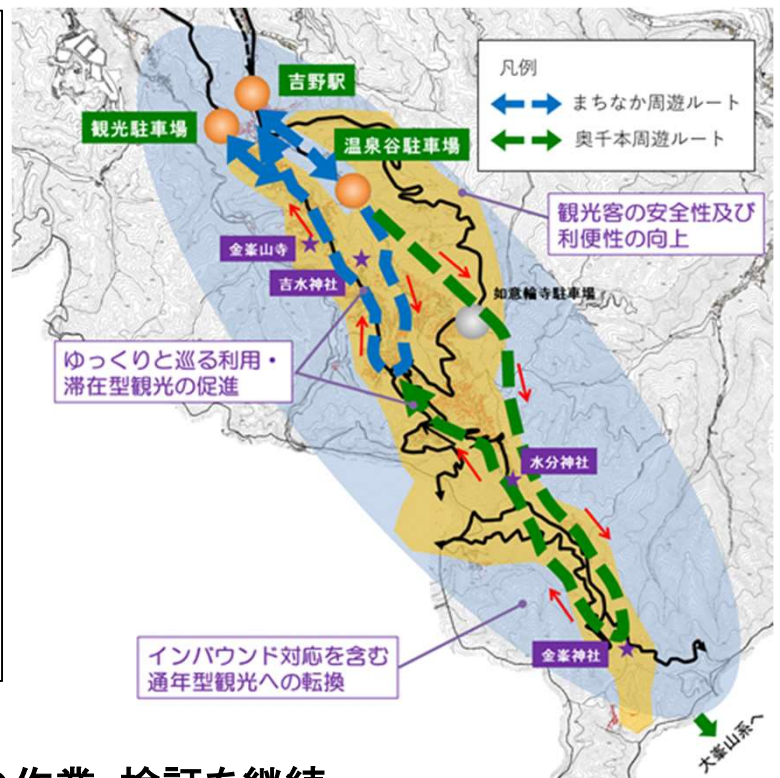
奈良県・吉野町の取組

新たな「吉野山観光周遊システム」の検討・推進

事業主体：吉野町（県：まちづくり連携協定に基づく技術・財政支援）
※地域住民主体の吉野山観光周遊システム検討委員会にて議論

＜基本方針＞ ゆったりとした時間の中で、吉野山の「風」を感じる、環境にやさしい周遊システムの構築

- 徒歩利用を中心とした滞在型観光を促進、観光客の安全性及び利便性の向上、通年型観光への転換を図るため、新たな交通システム導入
- 高低差の移動が可能で、景観への影響が小さく、移動自体が魅力的な資源となる手段として、「チェアリフト」を採用



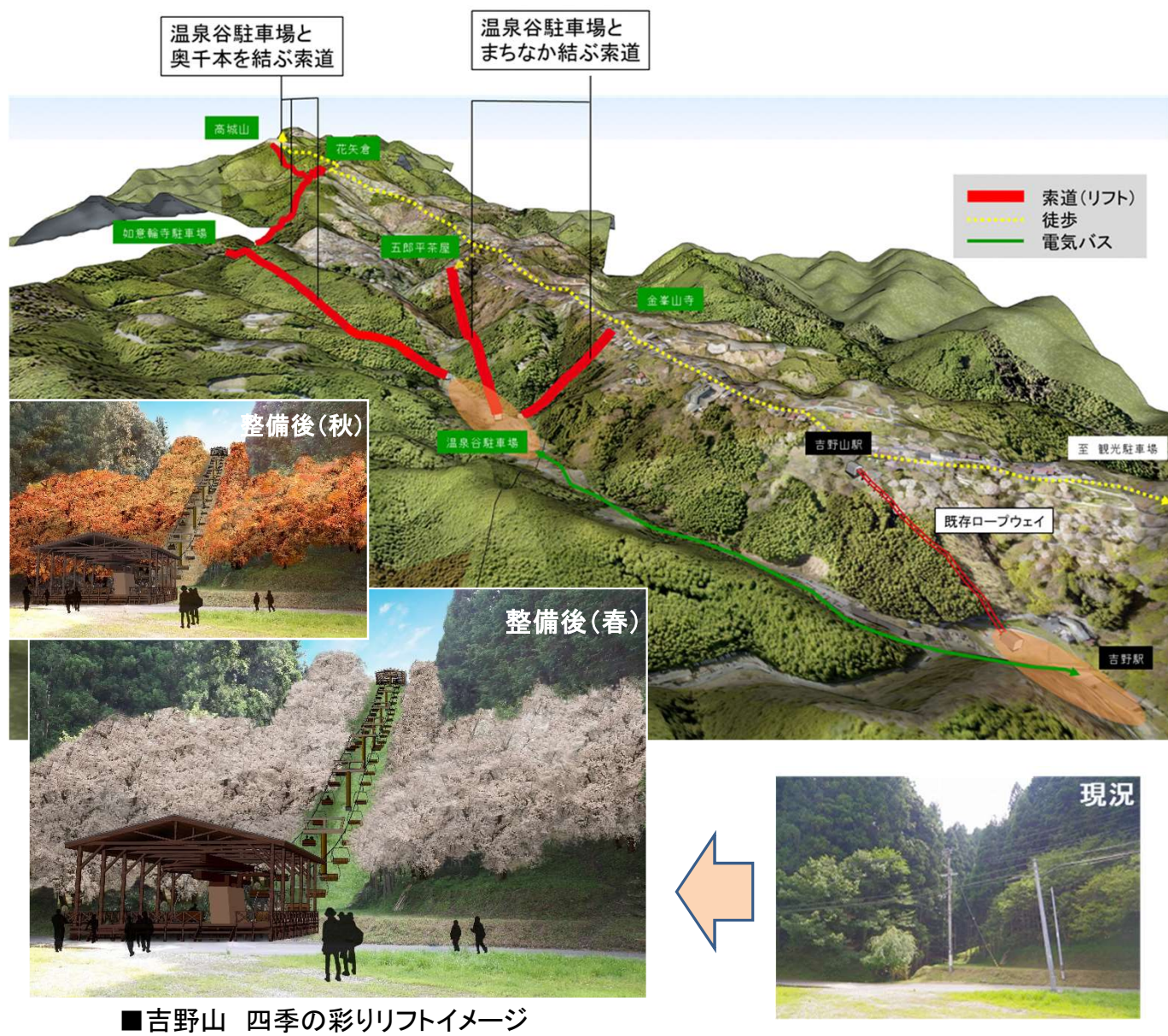
環境省からの指導の下、以下の作業・検証を継続

- ・視点場からのフォトモンタージュ作成
- ・自然環境調査等による詳細ルート設定
- ・事業採算性の検証（フィジビリティスタディ）

国にお願いすること

新たな索道（観光リフト）整備（事業主体：吉野町）の早期事業化に向けて、公園計画を変更（自然公園法第8条）し、公園事業として決定（同第9条）されるよう、特段の配慮をお願いする。

◆新たな索道（観光リフト）整備計画（案）



【県担当部局】景観・環境局 景観・自然環境課
まちづくり推進局 地域デザイン推進課
【吉野町担当部局】総合政策課、文化観光交流課